

島根から全国へ展開するアドベンチャーセラピー ～子どもたちの心の絆を紡ぐために～

島根県立大学 人間文化学部

川中淳子 藤原映久 内山仁志
高橋泰道 西村健一 福井一尊

はじめに 現代社会:こころの絆を紡ぐことが難しいのでは?
子どもたち:他者との豊か交流を持つ機会が限られているのでは?

アドベンチャーとは:**自然体験だけではなく、心の冒険もある**
★例えば不登校の子どもが登校するのは、心の中では大きな冒険
・屋内でのユニバーサルスポーツ
・ASE (Action Socialization Experience 社会性を育む体験活動)
⇒両方ともアドベンチャーの要素が多く含まれる

セラピーとは:人(セラピスト、カウンセラー)と共に
・心の成長や良好な対人関係を目指す
・自分の心の特徴に気付く
・こころに関する多くの気づきを得る
・葛藤を乗り越える



【アドベンチャーセラピー:方法と効果】
・発展の可能性は大きい
・効果については、意図的に得られているというよりはアドベンチャー体験をとどめて偶発的に得られている
・これからは意図的な効果を得られるように活動を展開する必要がある

【対象者1】心理療法(セラピーやカウンセリング)の対象者
・不適応が生じている子どもにだけ実施されるものではない
・一人ひとりが持てる力を発揮し自分らしく生きていくことを目的としているので、誰もが対象者となる
⇒アドベンチャーセラピーは孤立する子ども達のなかまづくりや子ども同士の暴力を減らすことなど、子どもたちの心の絆の構築に大きな役割を果たす

【対象者2】社会的養護の子どもたち
・社会的養護の子どもたち
・虐待等により人や世の中に対する基本的信頼感が十分に構築されていないことが多い
・虐待から逃れるために施設に入所した子どもが、子ども間暴力の被害者になるといった事態が頻発
⇒アドベンチャーセラピーは要保護児童に対する支援策として期待できる

【子どもたちにとっての自然体験の場】
島根:豊かな自然、アドベンチャー体験に適した環境
島根県内外:多くの国立青少年自然の家などの公共施設がある
しかし、子ども達の自然体験活動の機会は少ない
自然体験施設は十分に活用されていない

【方法の確立】
・多くの方が身近なところで体験できるようにすること
・島根での普及率を上げること
・国内外に普及させること

活動報告

【3キャンパス合同勉強会】
「グループ活動や子どもの成長に関する意見交換会」
★内容: 各教員の取り組みや研究の紹介、出雲サマースクール
コミュニケーション学理論、アドベンチャーセラピー
★日時: 2024年7月30日9時30分～
★方法: 松江キャンパス会議室とオンラインを併用したハイブリッド方式
★参加者: 出雲C 高橋恵美子先生 小田美紀子先生
浜田C 江口真理子先生
松江C 藤原映久 内山仁志 川中淳子

【プロジェクト・プログラミング講習 参加】
★日程: 2024年8月2日～6日
★場所: PAJ日野春ホームコース(山梨県北杜市)
★参加目的: アドベンチャー活動の
実際に知りスキルを身につける

【研修 なかまづくりのワークと理論】
★日程: 2025年1月12日
★場所: 島根県立青少年の家 サン・レイク
★講師: 毛利社会教育主事(サン・レイク)
★参加者の感想
・なかまづくりのために役立つプログラムを具体的に
知ることができた(参加学生)
・プログラムの理論的背景について学び直すことが
できた(参加教員)
・活動体験で輪に入ることを躊躇する子どもへの
対応を考えることができた(参加教員)

【リスクマネジメント研修】
★日程: 2024年12月6日
★場所: 島根県立大学
★講師: 毛利社会教育主事、小村社会教育主事(サン・レイク)
★参加者の感想:
自分たち学生は子どもたちの危険を防ぐためにという視点で考えていたが、
教員グループは、どうやって安全にチャレンジをさせるかと考えていることを
知って驚いた(参加学生)
日頃から、日常生活に潜む危険に目を向けることこそが安全な活動につな
がることを学んだ(参加教員)

【今後に向けて】
藤原:現在、ゼミの活動として、児童養護施設でのASEの実施を計画中。社会的養護の場におけるアドベンチャー活動を実践していきたい
内山:LD児への学習支援をしている。今後は集団活動や戸外での活動に展開していくうえで、アドベンチャー活動を取り入れて実践していきたい
川中:これからは島根県立大学が主体となり子どもや学生を対象としたアドベンチャー活動を実践していきたい

